



初

○執テウ鳥ニ執シ鳥ニ廣雅小曰執シ鳥ニ執シ鳥ニ元ハ多クと振執フクもとの義ふ

と切韻曰執ヨシのヤウ鶴ツルの熱名なり種数多し一人抵とた

ふ記せり本邦汝の形なり
人皇十代仲哀帝の御

宇百濟國の人畜を携ふて筑前冷泉の津今の小倉なり

之後十七代に徳帝甲子三年倭細の屯倉の阿海^コと異なりなる

百濟の王子酒々名姫とその多と和泉の國百舌那の御持と振出と

多く乃雄と執り、至本邦初時の如きなり
シカセシヨリ
尔耳天子諸侯故也

を事とせむハ獲エモのをもえくはるハ耕作シの辛苦クとも目のぼろよ

見改^{トクシツ}の得失も親しく聴きぬなりといへ

○商といふ英字なり是ト爲^ト座敷^ヤを名^ナ考^{カウ}ト一^一本^{ホン}及^キび

詠書に見ゆるわれとほふあやて黄齋といふ齋は二冊

